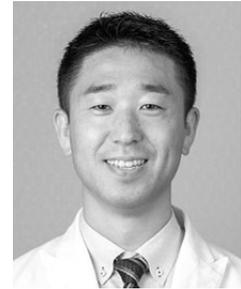


診療看護師の卒後研修の在り方

山田 徹

東京医科歯科大学総合診療医学分野



診療看護師 (Nurse Practitioner : NP) は 2008 年に大分県で NP 養成課程が初めて創設されてから 12 年、初の修了生が誕生してから 10 年の歴史がある。2019 年 3 月現在で計 400 名以上の NP が誕生している。看護師としての実務経験 5 年以上 + 大学院 2 年 + 卒後研修という要件は時間的・労力的にも金銭的にもかなりの投資であり、NP にはそれだけ真摯に医療に向き合おうとしている人材が集まっているであろうことは容易に想像できる。よい人材を集めることは NP という職業が成功・発展するための強力な武器になるが、あくまで入口評価でのことである。そのような人材を教育し、「こうなったら一人前の NP」とする出口評価はどうなっているだろうか。

演者は前任地の東京ベイ浦安市川医療センターで、総合内科プログラムディレクター・NP プログラムディレクターとして、2013 年 4 月から 2019 年 3 月までの 6 年間、NP 卒後研修生の内科教育・研修プログラム構築に携わってきた。それまで NP と一緒に仕事をした経験は無かったが、やる気にあふれた NP 研修生との日々の臨床は素晴らしい経験であり、臨床面・教育面での NP の有用性を実感することができた。その反面、卒後研修の要件が不明瞭である点、診療体制・指導体制を意識して構築しないと NP のメリットを十分に生かすことができない点、待遇・収入面の問題など、これだけの人材を受け入れるシステム面がまだまだ未成熟であることも痛感した。

黎明期に様々な面での受け皿が整っていないことは、ある程度やむを得ない。ではこれからの卒後研修を迎える新たな NP の後輩のために、どのような研修制度の構築が必要だろうか。今回は NP 卒後研修のゴール設定とそのために必要な手順について、医師の研修プログラムと比較しながら考察する。